

第3次コミュニティー計画

◆令和8～17年度のバイブル —スリム化と重点化—

★アンケートは中学生以上の全地区民

アンケート実施：11月17日(日)～27日(水)

振興会だより

令和6年10月24日発行
編集・発行 振興会
羽田地区 羽田地区センター

羽田地区振興会・羽田地区センターは、令和6年度から7年度にかけて、第3次コミュニティー計画を策定します。

コミュニティー計画策定以来、7年以上経過し、時代の変化が急速に進行している状況下、時代の変化に対応した事業、行事とは何かを考えざるを得なくなってきたこと、少子高齢化の波をまともに受け、振興会で実質的に活動する人員の確保が難しくなってきたこと(65～70歳まで働く人がほとんどである)こと、地区センターに業務が集中したことにより、地域活動員の業務量が増大し、活動が限界に近い状況にあり、さらに、令和8年度から地域活動員が2名体制となること、以上3点が第3次コミュニティー計画を策定する主な理由となります。

第3次コミュニティー計画は、令和8年度から17年度までの10年間の羽田地区全地区民と羽田地区振興会のバイブルとなるものです。アンケートは、中学生以上の全地区民を対象とします。ご協力をお願いします。詳細は、裏面を一読願います。

「東海道を歩く会」実施 「東海道マップ」作成

羽田地区振興会文教福祉部会(佐藤和雪部会長)は、10月12日(土)に、「東海道を歩く会」を実施しました。この企画の趣旨は、「アテルイ・モレ ロマン古道」を歩こう」というものです。平成14年の「アテルイ没後千二百年記念」の継続事業として「東海道を歩く会」が発足し、今年で第19回を数える歴史を刻んでいます。なお、「東海道」は、「あづまかいどう」と読みます。

一関市から北上市までの参加者29名と、実行委員15名の、総勢44名で歩きました。東海道の造詣の深い佐藤建樹さん、小林正章さんから丁寧な説明をいただき、充実した1日を過ごしました。

なお、文教福祉部会は、『東海道マップ』の作成に取り組んでいます。追って、全戸配付します。



地区要望市から回答

6月に市へ提出した地区要望10項目は、7月の意見交換会を経て、10月16日(水)までに、10項目全てについて、市から回答がありました。

以下、評価と項目名を列挙します。

- ・ B 江刺開発に併せた羽田振興策
 - ・ B 空き家対策
 - ・ D 旧羽田幼稚園跡地活用
 - ・ B 人口減少対策
 - ・ B まちの活性化対策
 - ・ B 黒田助・外浦線ライン引直し
 - ・ B 芦ヶ沢水路の改修工事
 - ・ E 荒川の川底掘削
 - ・ C 出羽神社参道の舗装改良工事
 - ・ C 荒川・久保線の舗装改良工事
- この10項目の中で、担当課からのコメントを読みますと、「黒田助・外浦線のライン引き直し」の1項目だけが、今年度中に実現します。

菊池彩地域活動員着任

10月1日から、北鶴ノ木在住の菊池彩さんが、地域活動員として着任しました。羽田の方が、活動員として採用されるのは9年ぶりです。

平面図を3Dイラストで、立体的に作る技術を持っています。どうぞ、よろしくお願いします。

『第3次コミュニティ計画』

—羽田のまちづくりの指針—

1次はいつ、背景は？

第1次コミュニティ計画(以下、コミュニティ計画は省略する)は、平成16年度に策定されています。この年は、羽田公民館から羽田地区センターに名称が変更になった年です。

このことは、地域のことは地域の住民が考え、住民自ら地域を運営していくという、「地域自治」の考え方が導入されたことを意味します。“コミュニティ”とは、“地域社会共同体”のことをいいます。

2次はいつ、背景は？

第2次は、平成28～29年度に策定されました。この28年度は、地区センターが振興会を指定管理者とする指定管理制度を導入した年です。

この制度は、市が主導する“協働のまちづくり”理念に基づき、生命と財産は行政が責任を持ち、地域のごとは地域の住民でという「地域自治」がより徹底した制度です。

「住みよいまち、住みたいまち」を創るための指針となりました。

『第3次』策定の工程表

令和6年度	10月	策定委員会立ち上げ
		「第3次」策定の周知
	11月	アンケート内容検討
	12月	アンケート実施、集約
	1月	アンケート集計
	2月	課題と解決策の検討
	3月	課題と解決策の検討
令和7年度	4月	課題解決のための事業検討
	5月	課題解決のための事業検討
	6月	事業等の優先順位検討
	7月	「第3次」案完成
	8月	「第3次」原稿作成
	9月	「第3次」冊子印刷(業者)
	10月	「第3次」冊子全戸配付



『第2次コミュニティ計画』平成29年8月発行

中学生以上の全地区民

アンケートは、11月上旬までの、「第3次」策定委員会による内容の検討、確定を経て、調査用紙は11月14日(木)の区長配付となります。各班の班長さんは、各家庭への配付、並びに回収にご協力をお願いします。アンケート調査用紙の配付、回収

★配付 11月14日(木)～17日(日)

★回収 11月27日(水)～30日(土)

「第3次」のアンケート調査の特色は、対象を、中学生以上の全地区民としたことです。できるだけ幅広い年代の皆さんから、羽田のまちづくりの考えを伺いたためです。

アイデアを書き込む!

「第3次」アンケート調査のもう一つの特色は、各調査項目についての記述欄を広くとったことです。これは、地区の皆さんが、各項目について、どんなご意見をお持ちなのかを知るためのものであります。また、斬新なアイデアを遠慮せず書き込んでいただくためのものです。

時代の変化は、私たちが考える以上に早いのが、現在の社会です。このような状況下、変化の先を読み、アイデアを駆使して最良の方策を選択することが必要となります。多くのアイデアをお待ちしております。

人口は二千五百人に?

『第2次』冊子によれば、平成29年4月に羽田の人口は、三千三百人でした。令和6年9月現在二千九百人弱です。減少率は十三%弱です。この減少率のまま推移するとすれば、令和十四年(八年後)には、羽田の人口は約二千五百人となります。

「第3次」策定に当たっては、この数値を念頭に置く必要があります。振興会で活動する人員の確保が難しくなり、複数の役職を受けざるを得ない人が出てくることとなります。事業の“スリム化と重点化”が必須となる所以です。

羽田の「魅力」を探る!

羽田にあるもので、市、県、全国に発信可能なものは何でしょうか? 列挙すれば、次のようになります。

- ① 铸件産業の集積地
 - ② 東北新幹線水沢江刺駅
 - ③ 奥州市総合体育館(Zアリーナ)
 - ④ 新小谷木橋
 - ⑤ 「北上夜曲」発祥の地・歌碑
- 羽田のまちづくりを推進するうえで、①～⑤は外せないものとなります。問題は、これらをどう有機的に結びつけ、どう人を呼び込むかに係っていると考えます。皆さんのアイデアに依るところ大です。